

DERWENT-ACC-NO: 2002-410911
DERWENT-WEEK: 200244
COPYRIGHT 2008 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Cooling effect producing deodorant cosmetics for preventing body odor, comprises preset amount of cooling effect sustaining component, coolant, and antisweat agent, disinfectant/microbicide and/or deodorizer

INVENTOR: SAKIGUCHI T

PRIORITY-DATA: 2000JP-265477 (September 1, 2000)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE
<u>JP</u>	March 19, 2002	JA
<u>2002080335</u>		
A		

INT-CL-CURRENT:

TYPE	IPC	DATE
CIPP	<u>A61 K 8/00</u>	20060101
CIPS	<u>A61 K 8/25</u>	20060101
CIPS	<u>A61 K 8/26</u>	20060101
CIPS	<u>A61 K 8/27</u>	20060101
CIPS	<u>A61 K 8/28</u>	20060101
CIPS	<u>A61 K 8/33</u>	20060101
CIPS	<u>A61 K 8/36</u>	20060101
CIPS	<u>A61 K 8/365</u>	20060101
CIPS	<u>A61 K 8/37</u>	20060101
CIPS	<u>A61 K 8/40</u>	20060101
CIPS	<u>A61 K 8/43</u>	20060101
CIPS	<u>A61 K 8/46</u>	20060101
CIPS	<u>A61 K 8/97</u>	20060101
CIPS	<u>A61 Q 15/00</u>	20060101

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 2002080335 A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - Cooling effect producing deodorant cosmetics comprises 0.1-5.0 mass% of cooling effect sustaining component, 0.01-2.0 mass% of coolant and 0.01-40.0 mass% of antisweat agent, disinfectant/microbicide and/or deodorizer, as main ingredients.

USE - As deodorant cosmetics for preventing body odor.

ADVANTAGE - The novel cooling effect producing cosmetics exhibits excellent deodorizing effect and moderate cooling effect for prolonged period. The cosmetics containing antisweat agent, disinfectant/microbicide and/or deodorizer, can be effectively stored in pressurized containers and is highly safe for human use.

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 2002080335 A

EQUIVALENT-ABSTRACTS:

ORGANIC CHEMISTRY

Preferred Ingredients: The cooling effect sustaining component is menthol derivative, preferably L-mentyl glyceryl ether, L-mentyl lactate or menthol inclusion powder. The coolant is menthol, camphor and/or eucalyptus oil. The antisweat agent comprises chloro hydroxy aluminum, para zinc phenolsulfonate, aluminum hydroxy chloride, aluminum chloride, aluminum sulfate, aluminum citrate, aluminum acetate, basic aluminum chloride, aluminum phenolsulfonate, (beta)-naphthol disulfonic acid aluminum, sodium perborate, aluminum-zirconium tetrachloro hydrate, aluminum-zirconium trichloro hydrate, zirconium chloro hydrate, aluminum potassium sulfate, allantoin chloro hydroxy aluminum, basic aluminum bromide, aluminum naphthalene sulfonic acid and/or basic iodinized aluminum. The disinfectant/microbicide is benzalkonium chloride, triclosan, isopropyl methyl phenol, 3,4,4-trichlorocarbanilide, 3,4,4-triethylcarbanilide, alkyl chloride trimethyl ammonium, resorcinol, phenol, sorbic acid, salicylic acid, hexachlorophene, chlorhexidine gluconate, chlorhexidine hydrochloride, isopropyl methyl phenol, silver carrying zeolite and/or silver carrying silica. The deodorizer is zinc oxide or zinc oxide composite powder.

None given.

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-80335

(P2002-80335A)

(43)公開日 平成14年3月19日(2002.3.19)

(51)Int.Cl.⁷

A 6 1 K 7/32
7/34
7/36
7/38

識別記号

F I

A 6 1 K 7/32
7/34
7/36
7/38

マークコード*(参考)

4 C 0 8 3

審査請求 未請求 請求項の数10 O.L. (全 11 頁)

(21)出願番号

特願2000-265477(P2000-265477)

(22)出願日

平成12年9月1日(2000.9.1)

(71)出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(72)発明者 崎口 孝行

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂第一リサーチセンター内

(74)代理人 100094570

弁理士 ▲高▼野 俊彦

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 冷感デオドラント化粧料

(57)【要約】

【課題】 制汗剤、殺菌剤、消臭剤の使用量をおさえ、安全性に優れ、十分なデオドラント効果と適度な清涼感を長時間に渡って付与できる新規な冷感デオドラント化粧料を提供すること。

【解決手段】 下記成分(A)と(B)と(C)とを含有することを特徴とする冷感デオドラント化粧料。

(A) 冷感持続成分: 0.1~5質量%

(B) 冷感物質: 0.01~2質量%

(C) 制汗剤、殺菌剤、消臭剤のいずれか一種又は2種以上: 0.01~40質量%

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 下記成分(A)と(B)と(C)とを含有することを特徴とする冷感デオドラント化粧料。

(A) 冷感持続成分: 0.1~5質量%

(B) 冷感物質: 0.01~2質量%

(C) 制汗剤、殺菌剤、消臭剤のいずれか一種又は二種以上: 0.01~40質量%

【請求項2】 前記(A)冷感持続成分が、メントール誘導体であることを特徴とする請求項1記載の冷感デオドラント化粧料

【請求項3】 前記(A)冷感持続成分が、L-メンチルグリセリルエーテルであることを特徴とする請求項1記載の冷感デオドラント化粧料

【請求項4】 前記(A)冷感持続成分が、L-メンチルラクテートであることを特徴とする請求項1記載の冷感デオドラント化粧料

【請求項5】 前記(A)冷感持続成分が、冷感物質内包粉末であることを特徴とする請求項1記載の冷感デオドラント化粧料

【請求項6】 前記(A)冷感持続成分が、メントール内包粉末であることを特徴とする請求項1記載の冷感デオドラント化粧料

【請求項7】 前記(B)冷感物質が、メントール、カンファー、ユーカリ油からなる群から選ばれた一種または二種以上の冷感物質であることを特徴とする請求項1、2、3、4、5または6記載の冷感デオドラント化粧料

【請求項8】 前記(C)制汗剤が、クロロヒドロキシアルミニウム、パラフェノールスルホン酸亜鉛、アルミニウムハイドロキシクロライド、塩化アルミニウム、硫酸アルミニウム、クエン酸アルミニウム、酢酸アルミニウム、塩基性塩化アルミニウム、フェノールスルホン酸アルミニウム、 β -ナフトールジスルホン酸アルミニウム、過ホウ酸ナトリウム、アルミニウムジルコニウムオクタクロロハイドレート、アルミニウムジルコニウムベンタクロロハイドレート、アルミニウムジルコニウムテトラクロロハイドレート、アルミニウムジルコニウムトリクロロハイドレート、ジルコニウムクロロハイドレート、硫酸アルミニウムカリウム、アラントインクロルヒドロキシアルミニウム、塩基性臭化アルミニウム、アルミニウムナフタリンスルホン酸、塩基性ヨウ化アルミニウム、酸化亜鉛からなる群から選ばれた一種または二種以上であることを特徴とする請求項1、2、3、4、5、6または7記載の冷感デオドラント化粧料

【請求項9】 前記(C)殺菌剤が、塩化ベンザルコニウム、トリクロサン、イソプロピルメチルフェノール、3、4、4-トリクロロカルバニリド(T.C.C.)、トリエチルサイトレート(T.E.C.)、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゾトニウム、塩化アルキルトリメチルアンモニウム、レゾルシン、フェノール、ソルビン

2

酸、サリチル酸、ヘキサクロロフェン、グルコン酸クロルヘキシジン、塩酸クロルヘキシジン、イソプロピルメチルフェノール、銀担持ゼオライト、銀担持シリカからなる群から選ばれた一種または二種以上であることを特徴とする請求項1、2、3、4、5、6、7または8記載の冷感デオドラント化粧料

【請求項10】 前記(C)消臭剤が、酸化亜鉛又は酸化亜鉛複合粉末であることを特徴とする請求項1、2、3、4、5、6、7、8または9記載の冷感デオドラント化粧料

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はデオドラント化粧料に関する。さらに詳しくは、皮膚に塗布したときに、ヒンヤリとした好ましい清涼感を与え、その持続性に優れた冷感デオドラント化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】デオドラント化粧料は、腋臭、足臭などをはじめとする体臭を防ぐために用いられる化粧料である。腋臭発生の機構は、多量に分泌された汗が皮脂と混ざり、それが皮膚常在菌によって分解され悪臭物質を產生することによると言われている。この悪臭物質の一つが低級脂肪酸であるとの報告がある。

【0003】このような腋臭物質発生の機構に対してデオドラント化粧料には、汗が多量に出ることを防ぐ制汗剤と皮膚常在菌を減少させる殺菌剤、低級脂肪酸に対して消臭効果をもつ消臭剤などが配合されている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来のデオドラント化粧料では、制汗剤、殺菌剤、消臭剤が配合されているものの、皮膚刺激性や薬事上の規制などの点から配合できる量には限界があり、デオドラントの効果感が十分得られない場合があり、デオドラントの効果感が長時間持続する商品が求められていた。

【0005】一方、皮膚に塗布したときに冷感を付与する化粧料を冷感化粧料と称し、従来の冷感化粧料は、大別して2つのタイプがある。すなわち、低級アルコールやエアゾールの噴射剤の気化熱を利用して皮膚温を低下させ冷感を付与するタイプと、メントールやカンファーなどの冷感物質を利用して感覚的に冷感を付与するタイプである。しかしながら、どちらのタイプも塗布後に有効な清涼感が長時間持続しないという改良すべき課題があった。

【0006】本発明者は上述の事情に鑑みてデオドラント化粧料を開発すべく鋭意研究した結果、制汗剤、殺菌剤、消臭剤と、冷感持続成分と、清涼剤などの冷感物質をそれぞれ特定量にて組み合わせると、デオドラント効果が著しく向上し、上記課題を解決できる冷感デオドラント化粧料が得られることを見出し本発明を完成するに至った。

50

【0007】本発明は、制汗剤、殺菌剤、消臭剤の使用量をおさえ、安全性に優れ、十分なデオドラント効果と適度な清涼感を長時間に渡って付与できる新規な冷感デオドラント化粧料を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】すなわち、本発明は、下記成分（A）と（B）と（C）とを含有することを特徴とする冷感デオドラント化粧料を提供するものである。

（A）冷感持続成分：0.1～5質量%

（B）冷感物質：0.01～2質量%

（C）制汗剤、殺菌剤、消臭剤のいずれか一種又は2種以上：0.01～40質量%

【0009】また、本発明は、前記（A）冷感持続成分が、メントール誘導体であることを特徴とする前記の冷感デオドラント化粧料を提供するものである。

【0010】さらに、本発明は、前記（A）冷感持続成分が、L-メンチルグリセリルエーテルであることを特徴とする前記の冷感デオドラント化粧料を提供するものである。

【0011】また、本発明は、前記（A）冷感持続成分が、L-メンチルラクテートであることを特徴とする前記の冷感デオドラント化粧料を提供するものである。

【0012】さらに、本発明は、前記（A）冷感持続成分が、冷感物質内包粉末であることを特徴とする前記の冷感デオドラント化粧料を提供するものである。

【0013】また、本発明は、前記（A）冷感持続成分が、メントール内包粉末であることを特徴とする前記の冷感デオドラント化粧料を提供するものである。

【0014】さらに、本発明は、前記（B）冷感物質が、メントール、カンファー、ユーカリ油からなる群から選ばれた一種または二種以上の冷感物質であることを特徴とする前記の冷感デオドラント化粧料を提供するものである。

【0015】また、本発明は、前記（C）制汗剤が、クロロヒドロキシアルミニウム、パラフェノールスルホン酸亜鉛、アルミニウムハイドロキシクロライド、塩化アルミニウム、硫酸アルミニウム、クエン酸アルミニウム、酢酸アルミニウム、塩基性塩化アルミニウム、フェノールスルホン酸アルミニウム、β-ナフトールジスルホン酸アルミニウム、過ホウ酸ナトリウム、アルミニウムジルコニウムオクタクロロハイドレート、アルミニウムジルコニウムペンタクロロハイドレート、アルミニウムジルコニウムテトラクロロハイドレート、アルミニウムジルコニウムトリクロロハイドレート、ジルコニウムクロロハイドレート、硫酸アルミニウムカリウム、アラントインクロロヒドロキシアルミニウム、塩基性臭化アルミニウム、アルミニウムナフタリンスルホン酸、塩基性ヨウ化アルミニウム、酸化亜鉛からなる群から選ばれた一種または二種以上であることを特徴とする前記の冷感デオドラント化粧料を提供するものである。

【0016】さらに、本発明は、前記（C）殺菌剤が、塩化ベンザルコニウム、トリクロサン、イソプロピルメチルフェノール、3,4,4-トリクロロカルバニリド（T.C.C.）、トリエチルサイトレート（T.E.C.）、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゾトニウム、塩化アルキルトリメチルアンモニウム、レゾルシン、フェノール、ソルビン酸、サリチル酸、ヘキサクロロフェン、グルコン酸クロルヘキシジン、塩酸クロルヘキシジン、イソプロピルメチルフェノール、銀担持ゼオライト、銀担持シリカからなる群から選ばれた一種または二種以上であることを特徴とする前記の冷感デオドラント化粧料を提供するものである。

【0017】また、本発明は、前記（C）消臭剤が、酸化亜鉛又は酸化亜鉛複合粉末であることを特徴とする前記の冷感デオドラント化粧料を提供するものである。

【0018】

【発明の実施の形態】以下、本発明の構成について詳述する。

【0019】本発明に用いる（A）冷感持続成分とは、20 肌上において、水分、酵素、常在微生物等の作用により徐々に変化し、冷感を与える物質である。例えば、メントール誘導体やカンファー誘導体が挙げられる。メントール誘導体が好ましく、具体的には、L-メンチルグリセリルエーテル、L-メンチルラクテートが挙げられる。最も好ましくは、L-メンチルラクテートである。

【0020】また、（A）冷感持続成分は、（B）冷感物質を内包した冷感内包粉末を好ましく用いることが出来る。該内包粉末は常法により製造することが出来る。特に好ましくはメントール内包粉末である。例えば、デシランなどの多糖類である高分子化合物とメントールとを水中に溶解又は乳化分散させ、乾燥させることにより、メントール内包粉末を得ることが出来る。

【0021】（A）冷感持続成分の配合量は、冷感デオドラント化粧料全量に対して0.1～5質量%であり、好ましくは、0.5～5質量%である。

【0022】本発明に用いる（B）冷感物質は、清涼剤として用いられている物質を使用することが出来る。好ましくは、メントール、カンファー、ユーカリ油からなる群から選ばれた一種または二種以上の冷感物質である。

【0023】（B）冷感物質の配合量は、冷感デオドラント化粧料全量に対して0.01～2質量%であり、好ましくは、0.1～2質量%である。

【0024】本発明に用いる（C）制汗剤又は殺菌剤又は消臭剤は、制汗剤、殺菌剤、消臭剤の少なくともいずれかが配合されることを意味する。

【0025】制汗剤としては、例えば、クロロヒドロキシアルミニウム、パラフェノールスルホン酸亜鉛、アルミニウムハイドロキシクロライド、塩化アルミニウム、硫酸アルミニウム、クエン酸アルミニウム、酢酸アルミニウム、

ニウム、塩基性塩化アルミニウム、フェノールスルホン酸アルミニウム、 β -ナフトールジスルホン酸アルミニウム、過ホウ酸ナトリウム、アルミニウムジルコニアムオクタクロロハイドレート、アルミニウムジルコニアムペントクロロハイドレート、アルミニウムジルコニアムテトラクロロハイドレート、アルミニウムジルコニアムトリクロロハイドレート、ジルコニアムクロロハイドレート、硫酸アルミニウムカリウム、アラントインクロルヒドロキシアルミニウム、塩基性臭化アルミニウム、アルミニウムナフタリンスルホン酸、塩基性ヨウ化アルミニウム、酸化亜鉛が挙げられる。これらの一種または二種以上が配合される。好ましくは、クロルヒドロキシアルミニウム、パラフェノールスルホン酸亜鉛である。

【0026】殺菌剤としては、例えば、塩化ベンザルコニウム、トリクロサン、イソプロピルメチルフェノール、3, 4, 4-トリクロロカルバニリド(T. C. C.)、トリエチルサイトレート(T. E. C.)、塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゾトニウム、塩化アルキルトリメチルアンモニウム、レゾルシン、フェノール、ソルビン酸、サリチル酸、ヘキサクロロフェン、グルコン酸クロロヘキシジン、塩酸クロロヘキシジン、イソプロピルメチルフェノール、銀担持ゼオライト、銀担持シリカなどが挙げられる。これらの一種または二種以上が配合される。好ましくは、塩化ベンザルコニウム、トリクロサン、イソプロピルメチルフェノールである。

【0027】消臭剤としては、例えば、酸化亜鉛、酸化亜鉛複合粉末、活性炭、緑茶抽出物など植物抽出物等が挙げられる。これらの一種または二種以上が配合されるが、酸化亜鉛又は酸化亜鉛複合粉末が好ましい。

【0028】(C)成分の配合量は、冷感デオドラント化粧料全量に対して、制汗剤、殺菌剤、消臭剤の全量で0.01~40質量%、好ましくは、0.05~40質量%である。

【0029】本発明の冷感デオドラント化粧料は上記した必須構成成分の他に、本発明の効果を損なわない範囲において化粧料に用いられる他の成分、例えば、粉末成分、水溶性成分、液体油脂、固体油脂、ロウ、炭化水素油、高級脂肪酸、高級アルコール、エステル油、シリコーン油、アニオン界面活性剤、カチオン界面活性剤、両性界面活性剤、非イオン界面活性剤、保湿剤、水溶性高分子、増粘剤、皮膜剤、紫外線吸収剤、金属イオン封鎖剤、糖、アミノ酸、有機アミン、高分子エマルジョン、pH調製剤、皮膚栄養剤、ビタミン、酸化防止剤、酸化防止助剤、香料、水等を必要に応じて適宜配合し、目的とする剤形に応じて常法により製造することができる。以下に具体的な配合可能成分を例示するが、上記必須配合成分と、下記成分の一種または二種以上とを配合して本発明の冷感デオドラント化粧料を調整できる。

【0030】粉末成分としては、例えば、無機粉末(例えば、タルク、カオリン、雲母、絹雲母(セリサイト)、

白雲母、金雲母、合成雲母、紅雲母、黒雲母、パーミキュライト、炭酸マグネシウム、炭酸カルシウム、ケイ酸アルミニウム、ケイ酸バリウム、ケイ酸カルシウム、ケイ酸マグネシウム、ケイ酸ストロンチウム、タンゲスタン酸金属塩、マグネシウム、シリカ、ゼオライト、硫酸バリウム、焼成硫酸カルシウム(焼セッコウ)、リン酸カルシウム、弗素アパタイト、ヒドロキシアパタイト、セラミックパウダー、金属石鹼(例えば、ミリスチン酸亜鉛、パルミチン酸カルシウム、ステアリン酸カルシウム、ステアリン酸アルミニウム)、窒化ホウ素等)；有機粉末(例えば、ポリアミド樹脂粉末(ナイロン粉末)、ポリエチレン粉末、ポリメタクリル酸メチル粉末、ポリスチレン粉末、スチレンとアクリル酸の共重合体樹脂粉末、ベンゾグアナミン樹脂粉末、ポリ四弗化エチレン粉末、セルロース粉末等)；無機白色顔料(例えば、二酸化チタン、酸化亜鉛等)；無機赤色系顔料(例えば、酸化鉄(ベンガラ)、チタン酸鉄等)；無機褐色系顔料(例えば、 γ -酸化鉄等)；無機黄色系顔料(例えば、黄酸化鉄、黄土等)；無機黑色系顔料(例えば、黒酸化鉄、低次酸化チタン等)；無機紫色系顔料(例えば、マンゴバイオレット、コバルトバイオレット等)；無機緑色系顔料(例えば、酸化クロム、水酸化クロム、チタン酸コバルト等)；無機青色系顔料(例えば、群青、紺青等)；パール顔料(例えば、酸化チタンコーテッドマイカ、酸化チタンコーテッドオキシ塩化ビスマス、酸化チタンコーテッドタルク、着色酸化チタンコーテッドマイカ、オキシ塩化ビスマス、魚鱗箔等)；金属粉末顔料(例えば、アルミニウムパウダー、カッパーパウダー等)；ジルコニアム、バリウム又はアルミニウムレーキ等の有機顔料(例えば、赤色201号、赤色202号、赤色204号、赤色205号、赤色220号、赤色226号、赤色228号、赤色405号、橙色203号、橙色204号、黄色205号、黄色401号、及び青色404号などの有機顔料、赤色3号、赤色104号、赤色106号、赤色227号、赤色230号、赤色401号、赤色505号、橙色205号、黄色4号、黄色5号、黄色202号、黄色203号、緑色3号及び青色1号等)；天然色素(例えば、クロロフィル、 β -カロテン等)等が挙げられる。

【0031】水溶性成分としては、例えば、メタノール、エタノール、プロパンノール、イソプロピルアルコール、ベンジルアルコール等のモノアルコール類；グリセリン、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、2, 5-ヘキサンジオール、2, 3-ブチレングリコール、ヘプタンジオール、2, 4-ヘキシレングリコール、1, 5-ペンタンジオール、1, 4-ブタンジオール、プロピレングリコール、1, 3-ブチレングリコール、ジプロピレングリコール、ポリエチレングリコール、ポリグリセリン等の多価アルコールおよびこれらの誘導体等が挙げられる。ま

た、有機酸及び有機塩類（アミノ酸、アミノ酸塩、オキシ酸塩）や無機塩類（塩化ナトリウム、塩化カリウム、塩化マグネシウム、炭酸水素ナトリウムなど）等より選択することもできる。

【0032】液体油脂としては、例えば、アボガド油、ツバキ油、タートル油、マカデミアナッツ油、トウモロコシ油、ミンク油、オリーブ油、ナタネ油、卵黄油、ゴマ油、パーシック油、小麦胚芽油、ザザンカ油、ヒマシ油、アマニ油、サフラワー油、綿実油、エノ油、大豆油、落花生油、茶実油、カヤ油、コメヌカ油、シナギリ油、日本キリ油、ホホバ油、胚芽油、トリグリセリン等が挙げられる。

【0033】固体油脂としては、例えば、カカオ脂、ヤシ油、馬脂、硬化ヤシ油、パーム油、牛脂、羊脂、硬化牛脂、パーム核油、豚脂、牛骨脂、モクロウ核油、硬化油、牛脚脂、モクロウ、硬化ヒマシ油等が挙げられる。

【0034】ロウ類としては、例えば、ミツロウ、カンデリラロウ、綿ロウ、カルナウバロウ、ベイベリーロウ、イボタロウ、鯨ロウ、モンタンロウ、ヌカロウ、ラノリン、カポックロウ、酢酸ラノリン、液状ラノリン、サトウキビロウ、ラノリン脂肪酸イソプロピル、ラウリン酸ヘキシル、還元ラノリン、ジョジョバロウ、硬質ラノリン、セラックロウ、POEラノリンアルコールエーテル、POEラノリンアルコールアセテート、POEコレステロールエーテル、ラノリン脂肪酸ポリエチレングリコール、POE水素添加ラノリンアルコールエーテル等が挙げられる。

【0035】炭化水素油としては、例えば、流動パラフィン、オゾケライト、スクワラン、ブリスタン、パラフィン、セレシン、スクワレン、ワセリン、マイクロクリスタリンワックス等が挙げられる。

【0036】高級脂肪酸としては、例えば、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘニン酸、オレイン酸、ウンデシレン酸、トール酸、イソステアリン酸、リノール酸、リノレイン酸、エイコサエン酸（EPA）、ドコサヘキサエン酸（DHA）等が挙げられる。

【0037】高級アルコールとしては、例えば、直鎖アルコール（例えば、ラウリルアルコール、セチルアルコール、ステアリルアルコール、ベヘニルアルコール、ミリスチルアルコール、オレイルアルコール、セトステアリルアルコール等）；分枝鎖アルコール（例えば、モノステアリルグリセリンエーテル（バチルアルコール）、2-デシルテトラデシノール、ラノリンアルコール、コレステロール、フィトステロール、ヘキシルドデカノール、イソステアリルアルコール、オクチルドデカノール等）等が挙げられる。

【0038】合成エステル油としては、ミリスチン酸イソプロピル、オクタン酸セチル、ミリスチン酸オクチルドデシル、パルミチン酸イソプロピル、ステアリン酸ブ

チル、ラウリン酸ヘキシル、ミリスチン酸ミリスチル、オレイン酸デシル、ジメチルオクタン酸ヘキシルデシル、乳酸セチル、乳酸ミリスチル、酢酸ラノリン、ステアリン酸イソセチル、イソステアリン酸イソセチル、12-ヒドロキシステアリン酸コレステリル、ジ-2-エチルヘキサン酸エチレングリコール、ジベンタエリスリトル脂肪酸エステル、モノイソステアリン酸N-アルキルグリコール、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、リノゴ酸ジイソステアリル、ジ-2-ヘプチルウンデカン酸グリセリン、トリ-2-エチルヘキサン酸トリメチロールプロパン、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン、セチル2-エチルヘキサノエート、2-エチルヘキシルパルミテート、トリミリスチン酸グリセリン、トリ-2-ヘプチルウンデカン酸グリセライド、ヒマシ油脂肪酸メチルエステル、オレイン酸オレイル、アセトグリセライド、パルミチン酸2-ヘプチルウンデシル、アジピン酸ジイソブチル、N-ラウロイル-L-グルタミン酸-2-オクチルドデシルエステル、アジピン酸ジ-2-ヘプチルウンデシル、エチルラウレート、セバシン酸ジ-2-エチルヘキシル、ミリスチン酸2-ヘキシルデシル、パルミチン酸2-ヘキシルデシル、アジピン酸2-ヘキシルデシル、セバシン酸ジイソブチル、コハク酸2-エチルヘキシル、クエン酸トリエチル等が挙げられる。

【0039】シリコーン油としては、例えば、鎖状ポリシロキサン（例えば、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、メチルハイドロジェンポリシロキサン等）；環状ポリシロキサン（例えば、デカメチルポリシロキサン、ドデカメチルポリシロキサン、テトラメチルテトラハイドロジェンポリシロキサン）等が挙げられる。

【0040】アニオン界面活性剤としては、例えば、脂肪酸セッケン（例えば、ラウリン酸ナトリウム、パルミチン酸ナトリウム等）；高級アルキル硫酸エステル塩（例えば、ラウリル硫酸ナトリウム、ラウリル硫酸カリウム等）；アルキルエーテル硫酸エステル塩（例えば、POE-ラウリル硫酸トリエタノールアミン、POE-ラウリル硫酸ナトリウム等）；N-アシルサルコシン酸（例えば、ラウロイルサルコシンナトリウム等）；高級脂肪酸アミドスルホン酸塩（例えば、N-ミリストイル-N-メチルタウリンナトリウム、ヤシ油脂肪酸メチルタウリッドナトリウム、ラウリルメチルタウリッドナトリウム等）；リン酸エステル塩（POE-オレイルエーテルリン酸ナトリウム、POE-ステアリルエーテルリン酸等）；スルホコハク酸塩（例えば、ジ-2-エチルヘキシルスルホコハク酸ナトリウム、モノラウロイルモノエタノールアミドポリオキシエチレンスルホコハク酸ナトリウム、ラウリルポリ

プロピレングリコールスルホコハク酸ナトリウム等) ; アルキルベンゼンスルホン酸塩(例えば、リニアドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム、リニアドデシルベンゼンスルホン酸トリエタノールアミン、リニアドデシルベンゼンスルホン酸等) ; 高級脂肪酸エステル硫酸エステル塩(例えば、硬化ヤシ油脂肪酸グリセリン硫酸ナトリウム等) ; N-アシルグルタミン酸塩(例えば、N-ラウロイルグルタミン酸モノナトリウム、N-ステアロイルグルタミン酸ジナトリウム、N-ミリストイル-L-グルタミン酸モノナトリウム等) ; 硫酸化油(例えば、ロート油等) ; POE-アルキルエーテルカルボン酸；POE-アルキルアリルエーテルカルボン酸塩； α -オレフィンスルホン酸塩；高級脂肪酸エステルスルホン酸塩；二級アルコール硫酸エステル塩；高級脂肪酸アルキロールアミド硫酸エステル塩；ラウロイルモノエタノールアミドコハク酸ナトリウム；N-パルミトイアルアスパラギン酸ジトリエタノールアミン；カゼインナトリウム等が挙げられる。

【0041】カチオン界面活性剤としては、例えば、アルキルトリメチルアンモニウム塩(例えば、塩化ステアリルトリメチルアンモニウム、塩化ラウリルトリメチルアンモニウム等)；アルキルビリジニウム塩(例えば、塩化セチルビリジニウム等)；塩化ジステアリジメチルアンモニウムジアルキルジメチルアンモニウム塩；塩化ポリ(N,N'-ジメチル-3,5-メチレンビペリジニウム)；アルキル四級アンモニウム塩；アルキルジメチルベンジルアンモニウム塩；アルキルイソキノリニウム塩；ジアルキルモリホニウム塩；POE-アルキルアミン；アルキルアミン塩；ボリアミン脂肪酸誘導体；アミルアルコール脂肪酸誘導体；塩化ベンザルコニウム；塩化ベンゼトニウム等が挙げられる。

【0042】両性界面活性剤としては、例えば、イミダゾリン系両性界面活性剤(例えば、2-ウンデシル-N,N,N-(ヒドロキシエチルカルボキシメチル)-2-イミダゾリンナトリウム、2-ココイル-2-イミダゾリニウムヒドロキサイド-1-カルボキシエチロキシ2ナトリウム塩等)；ベタイン系界面活性剤(例えば、2-ヘプタデシル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタイン、ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン、アルキルベタイン、アミドベタイン、スルホベタイン等)等が挙げられる。

【0043】親油性非イオン界面活性剤としては、例えば、ソルビタン脂肪酸エステル類(例えば、ソルビタンモノオレエート、ソルビタンモノイソステアレート、ソルビタンモノラウレート、ソルビタンモノパルミテート、ソルビタンモノステアレート、ソルビタンセスキオレエート、ソルビタントリオレエート、ペンタ-2-エチルヘキシル酸ジグリセロールソルビタン、テトラ-2-エチルヘキシル酸ジグリセロールソルビタン等)；グリセリンポリグリセリン脂肪酸類(例えば、モノ綿実油脂肪酸グリセリン、モノエルカ酸グリセリン、セスキオレイ

ン酸グリセリン、モノステアリン酸グリセリン、 α , α' -オレイン酸ピログルタミン酸グリセリン、モノステアリン酸グリセリンリンゴ酸等)；プロピレングリコール脂肪酸エステル類(例えば、モノステアリン酸プロピレングリコール等)；硬化ヒマシ油誘導体；グリセリンアルキルエーテル等が挙げられる。

【0044】親水性非イオン界面活性剤としては、例えば、POE-ソルビタン脂肪酸エステル類(例えば、POE-ソルビタンモノオレエート、POE-ソルビタンモノステアレート、POE-ソルビタンモノオレート、POE-ソルビタンテトラオレエート等)；POEソルビット脂肪酸エステル類(例えば、POE-ソルビットモノラウレート、POE-ソルビットモノオレエート、POE-ソルビットペンタオレエート、POE-ソルビットモノステアレート等)；POE-グリセリン脂肪酸エステル類(例えば、POE-グリセリンモノステアレート、POE-グリセリンモノイソステアレート、POE-グリセリンモノオレエート等)；POE-脂肪酸エステル類(例えば、POE-ジステアレート、POE-モノジオレエート、ジステアリン酸エチレングリコール等)；POE-アルキルエーテル類(例えば、POE-ラウリルエーテル、POE-オレイルエーテル、POE-ステアリルエーテル、POE-ベヘニルエーテル、POE-2-オクチルドデシルエーテル、POE-コレスタノールエーテル等)；ブロニック型類(例えば、ブロニック等)；POE・POP-アルキルエーテル類(例えば、POE・POP-セチルエーテル、POE・POP-2-デシルテトラデシルエーテル、POE・POP-モノブチルエーテル、POE・POP-水添ラノリン、POE・POP-グリセリンエーテル等)；テトラPOE・テトラPOP-エチレンジアミン総合物類(例えば、テトロニック等)；POE-ヒマシ油硬化ヒマシ油誘導体(例えば、POE-ヒマシ油、POE-硬化ヒマシ油、POE-硬化ヒマシ油モノイソステアレート、POE-硬化ヒマシ油トリイソステアレート、POE-硬化ヒマシ油モノピログルタミン酸モノイソステアリン酸ジエステル、POE-硬化ヒマシ油マレイン酸等)；POE-ミツロウ・ラノリン誘導体(例えば、POE-ソルビットミツロウ等)；アルカノールアミド(例えば、ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド、ラウリン酸モノエタノールアミド、脂肪酸イソプロパンノールアミド等)；POE-プロピレングリコール脂肪酸エステル；POE-アルキルアミン；POE-脂肪酸アミド；ショ糖脂肪酸エステル；アルキルエトキシジメチルアミノキシド；トリオレイン酸等が挙げられる。

【0045】保湿剤としては、例えば、ポリエチレングリコール、プロピレングリコール、グリセリン、1,3-ブチレングリコール、ヘキシレングリコール、キシリトール、ソルビトール、マルチトール、コンドロイチン硫酸、ヒアルロン酸、ムコイチン硫酸、カロニン酸、アテロコラーゲン、コレステリル-12-ヒドロキシステアレート、乳酸ナトリウム、胆汁酸塩、dl-ピロリドンカルボン酸塩、短鎖可溶性コラーゲン、ジグリセリン(EO)PO

付加物、イザヨイバラ抽出物、セイヨウノコギリソウ抽出物、メリロート抽出物等が挙げられる。

【0046】天然の水溶性高分子としては、例えば、植物系高分子（例えば、アラアビアガム、トラガカントガム、ガラクタン、グアガム、キヤロブガム、カラヤガム、カラギーナン、ペクチン、カンテン、クインスシード（マルメロ）、アルゲコロイド（カッソウエキス）、デンプン（コメ、トウモロコシ、バレイショ、コムギ）、グリチルリチン酸）；微生物系高分子（例えば、キサンタンガム、デキストラン、サクシノグルカン、ブルラン等）；動物系高分子（例えば、コラーゲン、カゼイン、アルブミン、ゼラチン等）等が挙げられる。

【0047】半合成の水溶性高分子としては、例えば、デンプン系高分子（例えば、カルボキシメチルデンプン、メチルヒドロキシプロビルデンプン等）；セルロース系高分子（メチルセルロース、エチルセルロース、メチルヒドロキシプロビルセルロース、ヒドロキシエチセルロース、セルロース硫酸ナトリウム、ヒドロキシプロビルセルロース、カルボキシメチルセルロースナトリウム、結晶セルロース、セルロース末等）；アルギン酸系高分子（例えば、アルギン酸ナトリウム、アルギン酸プロピレングリコールエステル等）等が挙げられる。

【0048】合成の水溶性高分子としては、例えば、ビニル系高分子（例えば、ポリビニルアルコール、ポリビニルメチルエーテル、ポリビニルピロリドン、カルボキシビニルポリマー等）；ポリオキシエチレン系高分子（例えば、ポリエチレングリコール20,000、40,000、60,000のポリオキシエチレンポリオキシプロピレン共重合体等）；アクリル系高分子（例えば、ポリアクリル酸ナトリウム、ポリエチルアクリレート、ポリアクリルアミド等）；ポリエチレンイミン；カチオンポリマー等が挙げられる。

【0049】増粘剤としては、例えば、アラビアガム、カラギーナン、カラヤガム、トラガカントガム、キヤロブガム、クインスシード（マルメロ）、カゼイン、デキストリン、ゼラチン、ペクチン酸ナトリウム、アラギン酸ナトリウム、メチルセルロース、エチルセルロース、CMC、ヒドロキシエチセルロース、ヒドロキシプロビルセルロース、PVA、PVM、PVP、ポリアクリル酸ナトリウム、カルボキシビニルポリマー、ローカストビーンガム、グアガム、タマリントガム、ジアルキルジメチルアンモニウム硫酸セルロース、キサンタンガム、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、ベントナイト、ヘクトライト、ケイ酸AlMg（ビーガム）、ラボナイト、無水ケイ酸等等が挙げられる。

【0050】紫外線吸収剤としては、例えば、安息香酸系紫外線吸収剤（例えば、パラアミノ安息香酸（以下、PABAと略す）、PABAモノグリセリンエステル、N,N-ジプロポキシPABAエチルエステル、N,N-ジエトキシPABAエチル

エステル、N,N-ジメチルPABAエチルエステル、N,N-ジメチルPABAブチルエステル、N,N-ジメチルPABAエチルエステル等）；アントラニル酸系紫外線吸収剤（例えば、ホモメンチル-N-アセチルアントラニレート等）；サリチル酸系紫外線吸収剤（例えば、アミルサリシレート、メンチルサリシレート、ホモメンチルサリシレート、オクチルサリシレート、フェニルサリシレート、ベンジルサリシレート、p-イソプロパノールフェニルサリシレート等）；桂皮酸系紫外線吸収剤（例えば、オクチルシンナメート、エチル-4-イソプロピルシンナメート、メチル-2,5-ジイソプロピルシンナメート、エチル-2,4-ジイソプロピルシンナメート、メチル-2,4-ジイソプロピルシンナメート、プロピル-p-メトキシシンナメート、イソプロピル-p-メトキシシンナメート、イソアミル-p-メトキシシンナメート、オクチル-p-メトキシシンナメート（2-エチルヘキシル-p-メトキシシンナメート）、2-エトキシエチル-p-メトキシシンナメート、シクロヘキシル-p-メトキシシンナメート、エチル- α -シアノ- β -フェニルシンナメート、2-エチルヘキシル- α -シアノ- β -フェニルシンナメート、グリセリルモノ-2-エチルヘキサノイルジバラメトキシンナメート等）；ベンゾフェノン系紫外線吸収剤（例えば、2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン、2,2'-ジヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2,2'-ジヒドロキシ-4,4'-ジメトキシベンゾフェノン、2,2',4,4'-テトラヒドロキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシ-4'-メチルベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸塩、4-フェニルベンゾフェノン、2-エチルヘキシル-4'-フェニル-ベンゾフェノン-2-カルボキシレート、2-ヒドロキシ-4-n-オクトキシベンゾフェノン、4-ヒドロキシ-3-カルボキシベンゾフェノン等）；3-(4'-メチルベンジリデン)-d,1-カンファー、3-ベンジリデン-d,1-カンファー；2-フェニル-5-メチルベンゾキサゾール；2,2'-ヒドロキシ-5-メチルフェニルベンゾトリアゾール；2-(2'-ヒドロキシ-5'-オクチルフェニル)ベンゾトリアゾール；2-(2'-ヒドロキシ-5'-メチルフェニルベンゾトリアゾール；ジベンザラジン；ジアニソイルメタン；4-メトキシ-4'-t-ブチルジベンゾイルメタン；5-(3,3-ジメチル-2-ノルボルニリデン)-3-ペンタン-2-オン等が挙げられる。

【0051】金属イオン封鎖剤としては、例えば、1-ヒドロキシエタン-1,1-ジフォスホン酸、1-ヒドロキシエタン-1,1-ジフォスホン酸四ナトリウム塩、エデト酸二ナトリウム、エデト酸三ナトリウム、エデト酸四ナトリウム、クエン酸ナトリウム、ポリリン酸ナトリウム、メタリン酸ナトリウム、グルコン酸、リン酸、クエン酸、アスコルビン酸、コハク酸、エデト酸、エチレンジアミンヒドロキシエチル三酢酸3ナトリウム等が挙げられる。

【0052】单糖としては、例えば、三炭糖（例えば、D-グリセリルアルデヒド、ジヒドロキシアセトン等）；四炭糖（例えば、D-エリトロース、D-エリトルロース、D-トレオース、エリスリトール等）；五炭糖（例えば、L-アラビノース、D-キシロース、L-リキソース、D-アラビノース、D-リボース、D-リブロース、D-キシリロース、L-キシリロース等）；六炭糖（例えば、D-グルコース、D-タロース、D-ブシコース、D-ガラクトース、D-フルクトース、L-ガラクトース、L-マンノース、D-タガトース等）；七炭糖（例えば、アルドヘプトース、ヘプトロース等）；八炭糖（例えば、オクツロース等）；デオキシ糖（例えば、2-デオキシ-D-リボース、6-デオキシ-L-ガラクトース、6-デオキシ-L-マンノース等）；アミノ糖（例えば、D-グルコサミン、D-ガラクトサミン、シアル酸、アミノウロン酸、ムラミン酸等）；ウロン酸（例えば、D-グルクロン酸、D-マンヌロン酸、L-グルロン酸、D-ガラクツロン酸、L-イズロン酸等）等が挙げられる。

【0053】オリゴ糖としては、例えば、ショ糖、グンチアノース、ウンペリフェロース、ラクトース、ブランテオース、イソリクノース類、 α , α -トレハロース、ラフィノース、リクノース類、ウンビリシン、スタキオスペルバースコース類等が挙げられる。

【0054】多糖としては、例えば、セルロース、クインスシード、コンドロイチン硫酸、デンプン、ガラクタン、デルマタン硫酸、グリコーゲン、アラビアガム、ヘパラン硫酸、ヒアルロン酸、トラガントガム、ケラタン硫酸、コンドロイチン、キサンタンガム、ムコイチン硫酸、グアガム、デキストラン、ケラト硫酸、ローカストビンガム、サクシノグルカン、カロニン酸等が挙げられる。

【0055】アミノ酸として、例えば、中性アミノ酸（例えば、スレオニン、システイン等）；塩基性アミノ酸（例えば、ヒドロキシリジン等）等が挙げられる。また、アミノ酸誘導体として、例えば、アシルサルコシンナトリウム（ラウロイルサルコシンナトリウム）、アシルグルタミン酸塩、アシル β -アラニンナトリウム、グルタチオン、ピロリドンカルボン酸等が挙げられる。

【0056】有機アミンとしては、例えば、モノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、モルホリン、トリイソプロパノールアミン、2-アミノ-2-メチル-1,3-プロパンジオール、2-アミノ-2-メチル-1-プロパノール等が挙げられる。

【0057】高分子エマルジョンとしては、例えば、アクリル樹脂エマルジョン、ポリアクリル酸エチルエマルジョン、アクリルレジン液、ポリアクリルアルキルエステルエマルジョン、ポリ酢酸ビニル樹脂エマルジョン、天然ゴムラテックス等が挙げられる。

【0058】pH調製剤としては、例えば、乳酸-乳酸ナトリウム、クエン酸-クエン酸ナトリウム等の緩衝剤等

が挙げられる。

【0059】ビタミン類としては、例えば、ビタミンA, B1, B2, B6, C, Eおよびその誘導体、パントテン酸およびその誘導体、ビオチン等が挙げられる。

【0060】酸化防止剤としては、例えば、トコフェロール類、ジブチルヒドロキシトルエン、ブチルヒドロキシアニソール、没食子酸エステル類等が挙げられる。

【0061】酸化防止助剤としては、例えば、リン酸、クエン酸、アスコルビン酸、マレイン酸、マロン酸、コ10 ハク酸、フマル酸、ケファリン、ヘキサメタフォスフェイト、フィチン酸、エチレンジアミン四酢酸等が挙げられる。

【0062】その他の配合可能成分としては、例えば、防腐剤（エチルパラベン、ブチルパラベン等）；消炎剤（例えば、グリチルリチン酸誘導体、グリチルレチン酸誘導体、サリチル酸誘導体、ヒノキチオール、酸化亜鉛、アラントイン等）；美白剤（例えば、胎盤抽出物、ユキノシタ抽出物、アルブチン等）；各種抽出物（例え20 ば、オウバク、オウレン、シコン、シャクヤク、センブリ、バーチ、セージ、ピワ、ニンジン、アロエ、ゼニアオイ、アイリス、ブドウ、ヨクイニン、ヘチマ、ユリ、サフラン、センキュウ、ショウキュウ、オトギリソウ、オノニス、ニンニク、トウガラシ、チンピ、トウキ、海藻等）、賦活剤（例えば、ローヤルゼリー、感光素、コレステロール誘導体等）；血行促進剤（例えば、ノニル酸フレニルアミド、ニコチン酸ベンジルエステル、ニコチニン酸 β -ブロトキシエチルエステル、カプサイシン、ジングロン、カンタリスチンキ、イクタモール、タンニン酸、 α -ポルネオール、ニコチニン酸トコフェロール、イ30 ノシトールヘキサニコチネート、シクランデレート、シンナリジン、トラゾリン、アセチルコリン、ベラバミル、セファランチン、 γ -オリザノール等）；抗脂漏剤（例えば、硫黄、チアントール等）；抗炎症剤（例えば、トラネキサム酸、チオタウリン、ヒポタウリン等）等が挙げられる。

【0063】本発明の冷感デオドラント化粧料の剤型は任意であり、溶液系、可溶化系、乳化系、粉末分散系、水-油二層系、水-油-粉末三層系等、どのような剤型でも構わない。製品形態も、例えば、エアゾールや化粧40 水、ロールオン、スティックなどという剤型で、腋臭防止化粧料、エチケット防臭化粧料等として多様に利用されるが特に限定されない。

【0064】

【実施例】次に実施例をあげて本発明をさらに具体的に説明する。本発明はこれによって限定されるものではない。配合量は質量%である。

【0065】「デオドラント効果感の試験法」「表1」のデオドラント化粧料について、一般パネル（n=20）を用いて官能評価をおこなった。全身に適量をなじませ、パネルに30分後、60分後、90分後、120

15

分後の汗をおさえる効果感と、ニオイをおさえる効果感を以下の基準で評価し、20名の平均値を求めた。結果をあわせて表1に示す。

<評価基準>

効果強度3：効果を感じる

効果強度2：やや効果を感じる

効果強度1：かすかに効果を感じる

効果強度0：効果を感じない

【0066】「冷感効果の試験方法」「表1」の冷感デオドラント化粧料について、一般パネル(n=20)を用いて官能評価をおこなった。左右の上腕の内側に4cm四方のティッシュをおき、そこに各冷感デオドラント化*

* 粒料を0.2g染み込ませ、パネルに各時における冷感を以下の基準で評価し、20名の平均値を求めた。結果を併せて「表1」に示す。

<評価基準>

冷感強度5：強く冷感を感じる。

冷感強度4：やや強く冷感を感じる。

冷感強度3：冷感を感じる。

冷感強度2：やや冷感を感じる。

冷感強度1：かすかに冷感を感じる。

冷感強度0：冷感を感じない。

【0067】

【表1】

	実施例1	比較例1	比較例2	比較例3
パラフェタルスルホン酸亜鉛(C)	0.5	0.5	0.5	-
メントール(B)	0.5	0.5	-	0.5
L-メンチルラクテート(A)	1.0	-	1.0	1.0
塩化ベンザルコニウム(C)	0.05	0.05	0.05	-
アルコール	60	60	60	60
水	残余	残余	残余	残余
汗をおさえる効果感				
30分後	2.8	1.5	0.8	0.3
60分後	2.6	0.6	0.7	0.2
90分後	2.4	0.3	0.4	0.2
120分後	2.2	0.2	0.2	0.1
ニオイをおさえる効果感				
30分後	2.7	1.3	0.9	0.3
60分後	2.4	0.5	0.8	0.2
90分後	2.2	0.4	0.6	0.1
120分後	2.0	0.3	0.4	0.1
全体的なデオドラント効果感	◎	△	△	×
経時による冷感強度				
塗布直後	4.5	4.3	3.3	4.4
30分後	3.4	2.9	2.7	3.5
60分後	2.6	1.5	2.0	2.5
120分後	1.7	0.2	1.4	1.6
全体的な冷感効果	◎	△	△	◎

【0068】「表1」から、本発明の実施例は、デオドラント効果に優れ、少ない配合量で長時間に渡り冷感を付与することが分かる。

【0069】以下にその他の実施例を挙げる。いずれの※

実施例2：デオドラントスプレー

(1) 酸化亜鉛	2.0
(2) メタケイ酸アルミン酸マグネシウム複合粉末	1.0
(3) ポリエチレンビーズ	5.0
(4) エタノール	5.0
(5) 塩化ベンザルコニウム	0.1
(6) 環状シリコーン5量体	0.6
(7) ソルビタントリオレート	0.1
(8) オクタン酸セチル	0.5
(9) メチルポリシロキサン	1.0
(10) メントール	1.0
(11) L-メンチルラクテート	1.0
(12) 香料	0.2
(13) 液化石油ガス	残部

【0071】

実施例3：デオドラントスプレー

(1) アルミニウムヒドロキシクロライド	0.5
----------------------	-----

※実施例も、好ましい清涼感を与え、その持続性に優れたものである。

【0070】

17

(2) 無水ケイ酸	6.0
(3) メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	1.0
(4) ナイロンビーズ	1.0
(5) イソプロピルメチルフェノール	0.5
(6) ソルビタンモノオレエート	0.5
(7) イソオクタン酸セチル	3.0
(8) メチルフェニルポリシロキサン	2.0
(9) ポリオキシエチレンポリオキシプロピレン デシルテトラデシルエーテル	0.2
(10) 香料	0.5
(11) ユーカリ油	0.5
(12) ビタミンE	0.05
(13) メントール	0.5
(14) メントール内包粉末	0.5
(15) 液化石油ガス	残部

【0072】

実施例4：コロンパウダースプレー

(1) タルク	5.0
(2) エタノール	20.0
(3) 1, 3-ブチレングリコール	5.0
(4) ミリスチン酸イソプロピル	1.0
(5) ソルビタンセスキイソステアレート	0.1
(6) 香料	5.0
(7) 液化石油ガス	残部

【0073】

実施例5：デオドラントロールオン

(1) アルミニウムハイドロキシクロライド	30.0
(2) メントール	0.5
(3) L-メンチルラクテート	1.0
(4) エタノール	60.0
(5) ユーカリ油	0.01
(6) 塩化ベンザルコニウム	0.5
(7) 酸化亜鉛複合粉末	0.01
(8) 増粘剤	0.05
(9) 水	残部

【0074】

【発明の効果】本発明によれば、制汗剤、殺菌剤、消臭剤の使用量をおさえ、安全性に優れ、十分なデオドラン*

* ト効果と適度な清涼感を長時間に渡って付与できる新規な冷感デオドラント化粧料を提供することが出来る。

フロントページの続き

F ターム(参考) 4C083 AA121 AA122 AB151 AB171
AB172 AB211 AB212 AB221
AB222 AB382 AB432 AB441
AC012 AC102 AC122 AC171
AC172 AC182 AC251 AC271
AC301 AC341 AC342 AC352
AC371 AC442 AC471 AC472
AC691 AC692 AC741 AC781
AC811 AD022 AD072 AD152
AD172 AD531 AD532 AD662
BB25 BB48 BB51 CC17 DD08